

1 中学校区における共通研究テーマ

小中9年間を通してキャリア発達を促すカリキュラムの在り方  
～全教育活動におけるキャリア教育の充実を通して～

2 研究主題及び研究仮説について

(1) 研究主題

「見つめる力」と「見通す力」の育成  
～人との関わり、学びのつながりを意識した授業改善を通して～

(2) キャリア教育が求められる背景

社会の変化と発達段階を見通したキャリア形成の問題点の一つは、現在行われている教育活動の一つ一つが、児童生徒のキャリア意識形成にどのような影響を与えているのかが明確にされていないことである。例えば、「二分の一成人式を実施したか」や「職場体験活動を何日間実施したか」といったアウトプット評価はこれまでもなされてきたが、「職場体験活動を通して生徒たちにどのような変化がみられるのか」「生徒たちにどのような力が身に付いたのか」といったアウトカム評価は各学校に委ねられており、それに関する調査や研究は進んでいない。また、平成29年告示学習指導要領から、全教育活動を通して行われるもの全てがキャリア教育であると包括的な捉え方をされているが、自己肯定感や自己決定といった、キャリア教育を通して醸成されることが期待されるものが、キャリア教育のどの活動を通して形成されているのか、整理されていないという問題もある。活動の何が児童生徒のキャリア意識形成に影響を与え、どのような力が身に付き、どのような姿を見せるのか、これらが明確になっていないことが、キャリア教育が進みにくい大きな一因になっていると考える。それらのことから、キャリア教育における活動で、様々な社会的能力がどのようなプロセスで形成され、そのとき児童生徒はどのような姿を見せるのかについて、一定の見解を得ることは、意義があることであると考え。

(3) 主題設定の理由

本中学校区では、令和3年度から広島県教育委員会より、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を進めてきた。中学校区で育てる資質・能力をそろえ、児童生徒の発達段階に応じたルーブリックを設定し、各教科における授業改善の取組を着実に重ねてきた。

<育てたい資質・能力（※4つの基礎的・汎用的能力を児童生徒にわかる言葉に整理した）>

- 見つめる力…自己理解・自己管理能力      ○関わる力…人間関係形成・社会形成能力
- やり抜く力…課題対応能力                      ○見通す力…キャリアプランニング能力

※基礎的・汎用的能力：様々な職業をやり遂げていくうえで必要となる基礎的な能力のこと。

研究一年次は、広島市内の大手企業6社に協力いただいた企業説明会や面接体験など、社会と関わり職業観を児童生徒に考えさせる施策を新たに企画・実施することができた。一方、活動における児童生徒の資質・能力の達成状況の評価については課題が残った。

そこで研究二年次では、学校行事の活動前後において、自己評価シート等に児童生徒の資質・能力の達成状況を記載させ、その記述から、活動ごとの資質・能力の評価を確実に進めることができた。児童生徒と付けたい力やなってほしい姿を活動前に共有し、自己評価シート等をベースに見通しを立て振り返る活動を積み重ねてきた。その結果、今の学習が未来や他の学びにつながることに気付いたり、キャリア教育における目標を持って努力したりしながら生活し、自分の成長を振り返ることができるように

なっている。しかし、年間を通した評価計画が漠然としており、評価の方法や計画については改善の余地があったと考える。

そこで研究三年次である今年度は、育てたい資質・能力を焦点化し、どのタイミングでどのような視点で評価・分析を行っていくのか計画するとともに、日頃の授業の中でどのような手立てや見取りが必要か検討するなど、子供たちの成長がより見える形になるよう、改善を図っていく。

昨年度、一昨年度の全国学力・学習状況調査、広島県児童生徒学習意識等調査、本校区で実施したアンケート結果から、本校生徒の現状の課題を述べる。第一に、「見つめる力」である。「学習時間には自分で課題を見つけている。」「やりなさいと言われなくても、自分から進んで勉強している。」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」の数値が、全国・広島県に比べて低い結果であった。このことから、学習と生活の両面で受け身である生徒が多く、主体的行動に課題があるといえる。また、「努力すれば、自分もたいていのことはできる。」の数値も低く、自己有用感や自己効力感についても課題があることがわかった。第二に、「見通す力」である。「将来の夢や目標をもっている。」「将来、仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強している。」「自分の個性や興味関心のあることに基づいて、中学校卒業後の進路を考えている。」「自分が将来就きたい職業について、どうしたらなれるのか調べたり、その実現に向けて努力したりしている。」の数値が、全国・広島県に比べて低い結果であった。このことから、学ぶこと・働くことの意義の理解が十分に進んでいないことや、将来を設計し、選択、行動する力に課題があることが分かった。

以上のことから、今年度は、「見つめる力」と「見通す力」の育成～人との関わり、学びのつながりを意識した授業改善を通して～を研究主題とし、主に「見つめる力」と「見通す力」の育成に焦点化し、取組を進める。

### (3) 研究仮説

キャリア教育の視点で、人との関わりや学びのつながりを意識した授業改善に取り組めば、生徒の「見つめる力」と「見通す力」が向上し、発達の段階に応じたキャリア発達が促されるであろう。

## 3 研究内容

### P キャリア教育活動の枠組みづくり

#### 新規

- ・学年ごとの育てたい子供像の設定
- ・「見つめる力」「見通す力」に焦点化したアンケート項目の検討
- ・「見つめる力」「見通す力」を育成する取組の焦点化
- ・補助簿の様式整理（長期）
- ・めざす自分シートの様式の作成（長期）

#### 継続

- ・系統表の再検討
- ・ほめポイントの整理
- ・各教科等の年間指導計画の中に育成したい資質・能力を記載する
- ・キャリア教育視点を取り入れた授業スタンダードの作成
- ・学習指導案様式の中にキャリア教育のルーブリック評価基準を記載する
- ・自己評価シートを活用した見取り（短期）

### D キャリア教育活動の実践

- ・将来の幸せな自分へのイメージマップ作り（中学校1年生）
- ・身近な大人へのインタビュー（職場体験活動先を含む）（中学校1年生）

- ・中1が小6に中学校の魅力を伝える会（中学校1年生）
- ・地域活性化を目的に，地元企業と協同で何かを創る（中学校2年生）
- ・職場体験活動（中学校2年生）
- ・高校からゲストティーチャーを呼び，「卒業生に学ぶ会」の設定（中学校3年生）
- ・企業面接体験（中学校3年生）
- ・メモ・思考欄の活用（全学年）
- ・学年ごとに育てたい子供像を校内掲示
- ・出張授業の企画，実施（地域の人との関わり）

C 評価・分析

- ・定量評価：全国学力調査，広島県児童生徒学習意識等調査，校区アンケート

- ・定性評価：

児童生徒が記述

めざす自分シート（長期），自己評価シート等のポートフォリオ（短期）

教師が記載

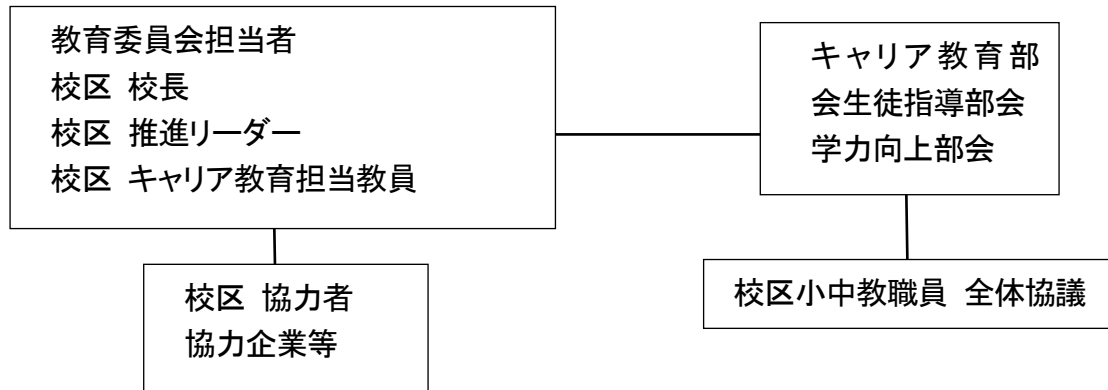
児童生徒の Before→After の姿を記録し，見取るための補助簿（長期）

- A 評価・分析をもとに，来年度の取組の方向付けをする

(1) 検証の指標

項 目	具体的な取組の内容			
	指標	達成目標	検証時期	検証方法
成果指標	自分の長所や短所，興味のあることを理解している児童生徒の割合（自己理解能力，自己管理能力）	Before→After の記述に変容が見られた児童生徒 88%以上	・7月 ・各教科等の授業における実施単元の前後 ・学校行事の前後	補助簿 ポートフォリオ
		児童生徒の肯定的評価 87%以上（12月）	5月，9月	児童生徒アンケート
	自分の考えを伝えるとともに，他者の意見も聴きながら，取り組むことができる児童生徒の割合（人間関係形成能力，社会形成能力）	Before→After の記述に変容が見られた児童生徒 88%以上	・7月 ・学校行事の前後	補助簿 ポートフォリオ
		児童生徒の肯定的評価 78%以上（12月）	5月，9月	児童生徒アンケート
	自分で決めたことを最後までやり通すことができる児童生徒の割合（課題対応能力）	Before→After の記述に変容が見られた児童生徒 88%以上	・7月 ・学校行事の前後	補助簿 ポートフォリオ
		児童生徒の肯定的評価 75%以上（12月）	5月，9月	児童生徒アンケート
	自分の個性や興味・関心のあることに基づいて，中学校卒業後の進路やどんな大人になりたいかを考えている児童生徒の割合（キャリアプランニング能力）	Before→After の記述に変容が見られた児童生徒 88%以上	・7月 ・各教科等の授業における実施単元の前後 ・学校行事の前後	補助簿 ポートフォリオ
		児童生徒の肯定的評価 89%以上（12月）	5月，9月	児童生徒アンケート

(2) 実施体制



(3) キャリア教育推進協議会の計画

回	月	内容
第1回	5	・年間スケジュールの確認, 取組内容の整理
第2回	7	・「見通す力」育成の取組に対する成果・課題の整理, 今後の取組の確認 (中学校 研究授業)
第3回	11	・「見つめる力」育成の取組に対する成果・課題の整理, 今後の取組の確認 (小学校 研究授業)
第4回	2	・「見通す力」育成の取組に対する成果・課題の整理, 今後の取組の確認 (小学校 研究授業) ・指定事業3年間における取組内容の成果・課題の共有

(4) 成果の普及方法

- ・ 1月26日(金)に公開研究会を行う。
- ・ キャリア教育実践の手引きを活用した研修会を実施(江田島市内の他の中学校区等)する。
- ・ 校区小中学校のホームページ掲載などにより, 他の市町への情報提供を行う。